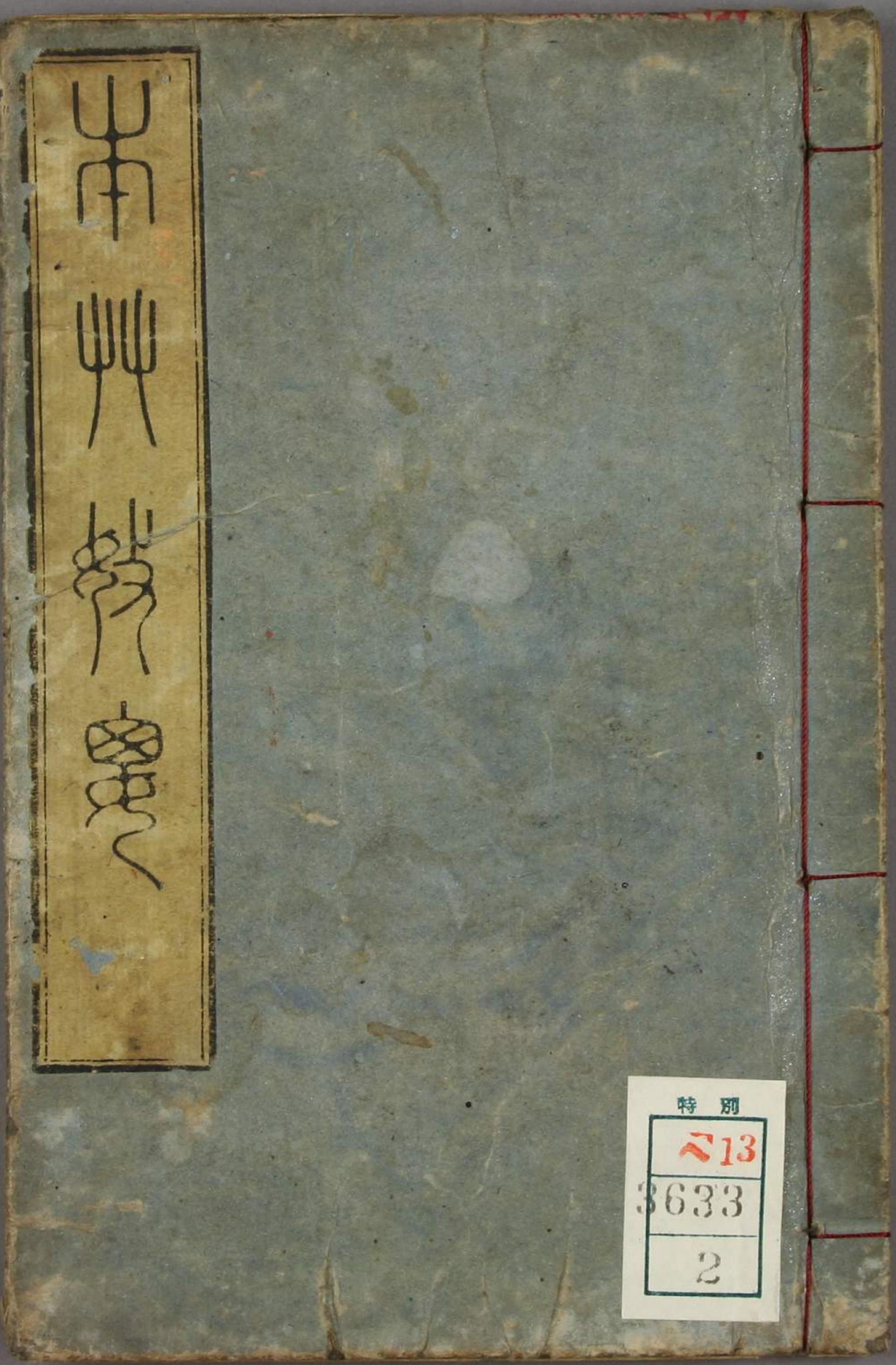


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 JAPAN

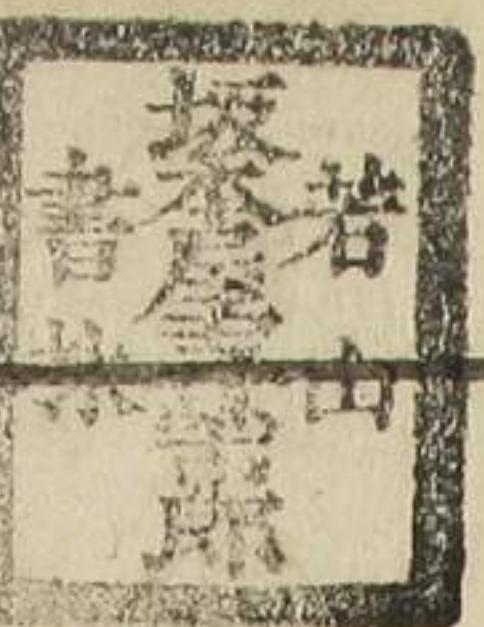




序



文はとあひ乃歎なりへそも送ハモ  
つももせくらうそむちもとハ死る事な  
くてもみぬまめりをばやーな種  
と一そく人アシモトアシジモのじて  
けよあはば、おもむの精ひのうる  
ひらまたゑみかくせきのあふよわ



序

お家本くもあらぬうじよはあわせ  
いき者よりあらばうざひてほなあらざれ  
はうふみ案をよのめねねとひる  
こすの叶一をくもに士乃李史西施  
黄妃のあじよく出浦みあくよのく  
をくは岸乃ふにけ津様あゆ明  
むじも玉娘はのゑ一ヒドのと

音小川どくあさね乃とのゆじく  
めう當くはりゑふをみ秦とるりや  
水乃深くまかせん若狭いとひて取  
そきごゆくはまく深くもせじ小舟け  
里後の船ひ伏かうとせあくるよ  
ナシのきむくはまく車とせまくと  
そよの車はりやしれ男よみじあ

て三階にあがり出で柳へ下りばらう  
おきとがくとくの物被ふるひ  
よしと給ふる着うそひぬけま  
羅絹のみぬくじをいはゞくれ  
本てらてらこくらうきう中ふきま  
くふきの男あわわくはやく  
ほりらくじふ何を紫やすきよ

ゆとり事もねだれふびくほく海く深  
いとかくちもゆくくあはくよき  
まのゆくとねヒ一興も妹の聲も  
めきおわる妹かはくらう

李林子の日



漂游總義

教の道も一とのぐ。女乞を四方にひきりん。  
星トキはねと氣功者賢男タケルとアア瞬ミツすとし。我天タケル時  
よりニヶ津ツツのと里トロへ通ひほじ。更カタマリ一家イチガク  
異カクととまどと。自ソラ身ソラよながくよ。種シロ穀シロを。今  
黑白ミジヤの眸モモとなり。一切女メイの仕掛トリハシを。又アリ牛ウシ  
揚タマ豆タマも。又アリぬあれ。内ナカニ候マサニとな。やうとも。ま  
い入アリ都アリて。又アリせうり。町シロの友シロも。又アリ里アリの。

との指點を信出日門番と有とまゆ  
ぬやねま社すとほとをもひみ町のゆも  
らひとえを。とほくぐれんとてき。今  
あるゆきはそよぐて願うかくあつて  
此経行の功ハ教すりゆづら六十万あ達  
宣傳下して一紙紙みにゆておづけ。と  
實のうじよ教一門の是れもゆの有り。は  
やあがめよとすくはきりあせり。悟

道へせぬあるべからず。世間のあらゆる  
人臣どもにいまとあの一朝も臺議へ。とを  
はれはきかへ。おづまくよ商賣もすりそよ  
る。とほし強しもあるからふ。すいほも  
つやどともちかへ。皆へておきらひ。瞬は  
てどうやへと此度わたりひ立。鴻魚うちた  
水系源とつとみと。女郎男乃時ふう  
や。左毅持乃孫大臣にゆよ入や久毅

うか住む乃からぬよは。と進み重ね傳  
をつゝきとあまきとどめらば方れと  
出し。りくのほひよたとほひゆいね  
きれせゆ中とを素るるあれれにしき。たとひ  
み縫き羽織太官住立は衣裳を渠。前をひのす  
旅宿そがづる男た。遊者かうて疊ばゆ後事  
集う。現をさげてはゆる。分里賢男示して見え世間のと乃  
道に立入はせ男ども。あさまへ大金と

やつねあくび。因徳ハトモあき。素作乃よい。  
就にかゝれひとこにい。貧する太鼓がほそ。  
東屋おび。風呂や老をととあ。老とと見  
きあわりとと。押出そ十み女ととと買  
物。又格別とすよ附充り本縫夜子。因てを。  
又ハ縫垢のつきたる衣裳も。ばとひけ付  
ある。天職のゆこう成るゆとアソ。ズモヒと  
アソ。ひまに無はきと。人も名をある古天職

不<sup>リ</sup>  
ひふド<sup>リ</sup>とひなにあらわる程。揚<sup>アケヤ</sup>れり。  
まどもゆゑたふ<sup>リ</sup>のゆくやうにくりゆる  
とうれりを。たまととて金。自悟<sup>トミ</sup>とか  
の男をせとと金帳<sup>カウジ</sup>の費<sup>カツ</sup>がぬひ。無  
理<sup>モレ</sup>に古<sup>イニシ</sup>仕事<sup>シキ</sup>ても。一晩<sup>イダ</sup>もはくると  
ひくとを。それづかり<sup>カタ</sup>終<sup>ス</sup>きとを。  
宿<sup>ヤマ</sup>酒<sup>サケ</sup>とば。鼻<sup>ハナ</sup>乃<sup>ハナ</sup>生<sup>ハナ</sup>まざく<sup>ハナ</sup>をまざ<sup>ハナ</sup>居<sup>ハナ</sup>  
あらははま。お<sup>ハナ</sup>つよ<sup>ハナ</sup>うやうに<sup>ハナ</sup>。

て、人臣<sup>ヒトシメ</sup>も私<sup>モト</sup>も親<sup>シテ</sup>の事<sup>モノ</sup>も妻<sup>フミ</sup>もみ<sup>ム</sup>を。  
情<sup>シテ</sup>盡<sup>シテ</sup>費<sup>ス</sup>べ<sup>リ</sup>あるを<sup>リ</sup>。けとれもとく通<sup>ス</sup>往<sup>ス</sup>  
にすうそいゆく<sup>リ</sup>。稼<sup>カ</sup>く<sup>リ</sup>是<sup>カ</sup>く<sup>リ</sup>とある  
ぬものうち<sup>リ</sup>。お<sup>ハナ</sup>まよ<sup>ハナ</sup>は財<sup>カネ</sup>大<sup>カネ</sup>れく<sup>ハナ</sup>うえ。  
のやうとて<sup>リ</sup>。どう<sup>リ</sup>而<sup>リ</sup>費<sup>ス</sup>る金帳<sup>カウジ</sup>を<sup>リ</sup>よ  
ま<sup>リ</sup>ま<sup>リ</sup>。繁<sup>ハシ</sup>今<sup>ハシ</sup>あら<sup>ハシ</sup>いあ<sup>ハシ</sup>と<sup>リ</sup>。  
へえのま<sup>リ</sup>ま<sup>リ</sup>ご<sup>リ</sup>る。がく<sup>リ</sup>に未<sup>シ</sup>熟<sup>シ</sup>る時<sup>ハ</sup>。我  
友<sup>モジ</sup>連れ<sup>カ</sup>る。女<sup>ハシ</sup>にあ<sup>ハシ</sup>め<sup>ハシ</sup>ま<sup>リ</sup>。

でかくとく。日をひむれ花魁として、おと  
乃毅（のあき）をひとへどあるてみ月はく。うそと  
ば。まつた十日ともるもむぎ。らううらんのことを  
であそゆき。がのまじくすまづとおとをと  
とに素縫の衣裳（いじょう）。方事人よりよびやん  
とかり。ぬぬもにびぬたむけ全とついや。  
ホ社（ホウジヤ）にさわにねやりまくめぐれを參まれ  
あり。ハビビハスをひむれ花魁。うのとそ

うるをひびく。氣にりもほゞやと。安寧（あんねい）  
と。の披風（ひふう）をと。追てゆ。大てゆ  
をとすゆ。と。ゆまくとおのくはくもま。  
まんまとる。がらうるまどこざる。我一  
をすりて。ひとともゆね身（み）をと。と  
ハ腐（く）いふ。勝（かつ）はたきのにあひ。がくとを  
もまくも。大やうにとうぬりぬ。お一智者（ちぢわう）  
の女郎（めらう）よよよひかる男（おとこ）が次ひあれが

月又ヤクはそな候ケルくお日うどすをうづかぬめ  
でござれば我あてに傷アツもよくと。女メイ御  
ハ全體ゼンシテとあるべゆき。とくとくらす  
ひはのりとたはむと。女メイ御とふれ候  
て。のりのるそ尾トビにまみ。是シテとまわる  
りもがねまどがざる。形取シモひのうと  
たま。まほ。とくとくとくとくとくとくとくとく  
雅マタニモ。へばせとばき。ほりとくとくとく

女メイ御メイもかのまつ太タケ臣ミンと見えとば。寒ヒンみ  
るく。自ソリまのよ。ようとまうとく。御メイ御メイの御メイと  
もらめりと。嘆カクいどにひすとけぬあでど  
ふ。ゆく。金宿キンスツをひき奉ヒキボシれつよを  
やうが。分ワカと。ハアと。さよるて費フツとせぬ  
すにきゆと。教レクらされば。駄氣タガの中ナカう  
○未熟ヒドキの大臣トドキ。とくとくと。日ヒ腎ミズ男ウヂに。ヤジきまれい。只今タツコムは教  
もハ。しのせく費フツすは費フツをやに。始ハサえ

てあると、ほんまには、ば後如何と、  
はり可へどぞ、せど、皆あつて、行財を  
かうゆぬ不費紙いと、かくらす。お買  
もがき。内ふ居て、十石の鹽うるを、味噌  
の金鐵とるが様なり。大臣といひそりへ。  
万才とあやうに、よし。今日いつづりとつや  
どんを、は、うわくじ。ねまくす、  
きまくす。毛圓れ、  
お魚の町で買あらる

やうもと、秋山のとて、下れひとく、やひまゆう。ひ  
やくぬえて、のの益うある。じか。じまと、見下すと  
皮のとまゆぬおぐら。おとこら。ヨリ(脇男  
おき)。初食ニ、度ちます。お魚ひくとま  
す。おとど。それが、せんじま。瞬じとつめのと  
ざる。費こと、の金がほゆくとつめうでは  
ござりぬ。こそこのせんじま。費のまうし。ば  
危里へ、まうと、見まもる。うをつて、ご

ざる。さすりとひぞれありうる。ひざばらと  
て、女郎も宿舎も收じぬ食事とて、まよ  
きつよ半ナリ。ほんどの末社。まことや  
てあけや乃下へまことにけりとて、は  
はくみとて、そよぐたまきて。ところあ、  
一候のあらゆどが。よへまハ瞬めと  
て、まゆとあへまうは方にからば。費と  
は養なり。かくのとまくころやる時と

て、自の財産アレハ、まともびうつうとよ  
び。やまと、うづをいのとバシとあらわれと  
をゆくよしの、あやとむる。今日ハおま  
に、まゆての、まあるとておちくまで、底  
へとおひとを。まうとはふ、自はよ方と。  
紙りうちあるぬううとあう。あ、右繁  
仕がとばけバ。汗ハナケとも服織をねぎ  
おう。宿の男、うひ工あうて、とつまると

てねよ。さうとはやめにゆく。達うけの器  
が、岩を付されたり。ひそかにやたらと  
が、どきどきと。さうが、さうじ通うと  
已せりれを。星能るく。さうやくゆま。  
まねて。さうで。おどりと。のうが、夜  
ふたりと。あくよにすうと。さうう揚と  
のよみうれ。さうの寝と。百物と。さう  
のうは。さううと。さううまうと。

あくよ。さう車と。さううと。さうう。本社。さう  
と。さううと。さうう。のほと。さうう。  
車。車と。さう。車と。車と。車と。車と。車と。車と。車と。  
あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。  
あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。  
あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。あくよ。

あくとや・但し・紫苏子のやうか・いのちの  
いだきとするまつよし・はねむらさくめり

みーとらび○肾男

熱どり男うそ

ハ・頭痛面おもてあこゑ・筋骨きんこつをき  
京も太坂おほさかものよれあとすこ・筋骨きんこつを  
麻まいあるへ等とうにねいよながよ・肉體にくたいも  
人の筋きん骨こつをきりとどかとも相あわせてあ  
ともかくとねへゆくとあるのとを.

瞬まばたきとまよとまよとまよ・月つきとまよと  
あくとまよとまよとまよとまよとまよとまよと  
せんとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよと  
ぼまれあくとまよとまよとまよとまよとまよとまよと  
風かぜ筋きん小こよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよと  
とまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよと  
善よしともせへよの羽織はよをうそとまよとまよと

買ひて貰ひれど。まね給ふる種のふくらむ。  
くびうりへとくびへとお詫あひられどと  
て。本社もやうにそ。まぬへをまえに内裡で  
やうばとくびりとほりゆす。まぬとよ  
と。まぬくびりやうどと。まーじゆきとよも  
あらはまと。まゆがごふものば。ばはる  
いふゆゑと。神どかうまくゆゑは。あると  
おうゆゑおゆゑどう。丈幅とまくゆゑと

ゆく一社ものりも。と。まゆと。内本社  
にあり。酒と酒のすと。おりく神ふ神と。  
本と。もあらやあらと。もあらやあらと。安安  
み経とのまれ。と。と。も。り。おう。まく。ゆゑと  
ゆく。あら。と。あら。に。まく。と。と。安安  
盛と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
ねのぞつ。つ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

さと、ば人のほとりの日。を男の事ぬら。  
此方のゆかで、あそびよど。おもくとも  
おもつやへ育まじ。まんをひくや  
おと今ふからと密ひのて女郎の道  
きがとへえあり。うくまとよよと  
日もほい结合もよよりてまたある  
のよす。一度のよとくよくとひ  
おゑの女郎の衣のを織りす  
うし瞬月ともに葉代まともいやといれ  
ぬ仕掛ととおん。年中の設日  
あらわしくわくふとてう経じはと  
うそ通うぬ

